

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)/2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	福山通運 北名古屋物流配送センター	階数	地下0階地上3階
建設地	愛知県北名古屋市石橋白目20番1, 22番1, 37番1, 38番1, 39番1, 130番3	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	20 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年11月 予定	評価の実施日	2024年5月29日
敷地面積	13,596 m ²	作成者	田中 秀明
建築面積	7,373 m ²	確認日	2024年5月31日
延床面積	21,555 m ²	確認者	河村 賢一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.8 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆ ★☆☆☆☆ ★☆☆☆☆ ★☆☆☆☆ ★☆☆☆☆

30%: ★☆☆☆☆ 60%: ★☆☆☆☆ 80%: ★☆☆☆☆ 100%: ★☆☆☆☆ 100%超: ★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	62%
③上記+②以外の	53%
④上記+	53%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
LR1 エネルギー: 2
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 4

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

音環境	N.A.
温熱環境	N.A.
光・視環境	N.A.
空気質環境	N.A.

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.6

機能性	N.A.
耐用性	3.1
対応性	4.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.8

生物環境	2.0
まちなみ	4.0
地域性	2.0

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.2

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	2.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

水資源	3.4
非再生材料の使用削減	3.5
汚染物質回避	3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.6

地球温暖化への配慮	4.8
地域環境への配慮	3.5
周辺環境への配慮	2.7

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.8</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <table border="1"> <tr><td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td><td>24.7 %</td></tr> <tr><td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td><td>0.0 %</td></tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	24.7 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	24.7 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています
あいち CASBEE

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 福山通運 北名古屋物流配送センター

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	重み係数		
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル		3.0	-	-	-	-	-	-	-	3.1
1.2 遮音		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3 吸音		-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 温熱環境										
2.1 室温制御		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 室温		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 外皮性能		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 空調方式		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3 光・視環境										
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 昼光率		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 方位別開口		-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 昼光制御		5.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3 照度		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.4 照明制御		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
4 空気質環境										
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 化学汚染物質		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
4.2 換気		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 換気量		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 自然換気性能		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
4.3 運用管理		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	0.43	-	-	-	-	-	3.6
1 広さ・収納性		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画	独自	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3 内装計画		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.5	3.1	0.52	-	-	-	-	-	3.1
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-	-
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.9	0.33	-	-	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	5.0	0.23	ALC:40年	-	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	5.0	0.09	床:浸透性表面硬化剤30年、壁:ALC素地50年、天井:テッキ表し40年	-	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	5.0	0.08		-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	5.0	0.15	給水:VLP、排水:VP、冷媒:CU	-	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23		-	-	-	-	-
2.4 信頼性		0.1	2.4	0.19		-	-	-	-	-
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20		-	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備		3.0	2.0	0.20		-	-	-	-	-
3 電気設備	②	3.0	3.0	0.20		-	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20		-	-	-	-	-
5 通信・情報設備		3.0	1.0	0.20		-	-	-	-	-

3 対応性・更新性				0.4	4.2	0.48	-	-	-	4.2
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		階高>3.9m	-	5.0	0.60				
2	空間の形状・自由度		壁長さ比率<0.1	3.0	5.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり			床用:10000N/m ² 、架構用:6700N/m ² 、地震用:3900N/m ²	3.0	5.0	0.31				
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38				
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17				
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17				
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11				
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11				
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22				
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57				2.8
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	2.0	0.30				2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	植栽による良好な景観の形成	-	4.0	0.40				4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30				2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性					-					3.8
LR1 エネルギー					-	0.40				4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m =0.61	3.0	5.0	0.20				5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.10				3.0
3 設備システムの高効率化			BEE=0	3.0	5.0	0.50				5.0
4 効率的運用				0.2	2.0	0.20				2.0
集合住宅以外の評価				1.0	2.0	1.00				
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				3.0	1.0	0.50				
集合住宅の評価				-	-	-				
4.1 モニタリング				-	-	-				
4.2 運用管理体制				-	-	-				
LR2 資源・マテリアル					-	0.30				3.4
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15				3.4
1.1 節水			省水型機器の採用	3.0	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.5	0.63				3.5
2.1 材料使用量の削減			BCP325、F.T.Pileの採用	-	4.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		-	3.0	0.21				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自		3.0	3.0	0.21				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	LGS+ホールの納まり、OAフロアの採用	3.0	5.0	0.25				
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22				3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.5	0.68				
1 消火剤				-	-	-				
2 発泡剤(断熱材等)			ODP<0.01かつ、1≦GWP<50の断熱材を使用	-	4.0	0.50				
3 冷媒				3.0	3.0	0.50				
LR3 敷地外環境					-	0.30				3.6
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率53%	-	4.8	0.33				4.8
2 地域環境への配慮				0.3	3.5	0.33				3.5
2.1 大気汚染防止			燃焼機器の採用なし	-	5.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自		-	3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25				
3 交通負荷抑制		独自	管理用車両や荷捌き用車両の駐車スペースを確保	-	5.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制				-	1.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				0.3	2.7	0.33				2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40				
1 騒音		独自		-	3.0	1.00				
2 振動		独自		-	-	-				
3 悪臭				-	-	-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40				
1 風害の抑制				-	3.0	0.70				
2 砂塵の抑制				-	-	-				
3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				0.2	1.6	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				-	1.0	0.70				
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30				

重点項目スコアシート

福山流通 北名古屋物流配送センター

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.8	0.10	
② 資源の有効活用				3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:24.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 福山通運 北名古屋物流配送センター

計画上の配慮事項	
総合	北名古屋市内に建設される物流配送センターの計画である。、道路境界線、敷地境界線沿いに植栽を積極的に設け、周辺環境に配慮している。また、節水器具の採用や再利用できるユニット部材の採用、使用材料を削減することで、省資源に配慮した計画としている。
Q1 室内環境	対象外。
Q2 サービス性能	耐用年数の長い外装、内装、配管材料を採用し建物の維持管理に配慮している。また、階高や壁長さ比率に余裕を持たせ、フレキシビリティにも配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	周辺環境に配慮し、道路境界線、敷地境界線沿いに植栽を積極的に設けている。また、外観パースを作成し、景観検証を行うなど、まちなみに配慮している。
LR1 エネルギー	LEDなど高効率の機器を採用することで、BEI値の低下に貢献している。
LR2 資源・マテリアル	節水器具の採用や再利用できるユニット部材の採用、使用材料を削減することで、省資源に配慮している。
LR3 敷地外環境	燃焼機器は使用せず、大気汚染防止に配慮している。
その他	特になし。